

43324

教科書文庫

4
760
40-1924
01304 58325

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科
40-
01304

北村季晴編

中等音樂教科書

(種甲)

卷貳

弘樂社出版部發行



中央図書館

教科書文庫

4

760

40-1924

0130458325

中等音樂教科書

(種甲)

卷貳

北村季晴編



弘樂社出版部發行

広島大学図書

0130458325



緒言

世に樂典の書類多からず。唱歌の集亦頗る多し。然かも如何にしてこの理論と實科との兩者を適當に繋ぎ連絡せしめて、秩序系統ある實際的教程を作るべきかは、此の科の教授上最も緊要の問題なるにも係らず、未だ之に關して適當の良著無きは如何。音樂者並びに教育者は、この問題を重要視せざるか。將た其重要なるを知つて、なほ之を等閑に附しつゝあるか。

「音樂科は技術的感情的課程なれば、他の理智的科目の如く、組織的教授を爲し得べきにあらず。」との誤れる臆斷の下に、不秩序なる教授の踏襲せらるゝや久し矣。試みに諸學校に就て、此の科の教授細目を視よ。多くは皆若干の歌曲が慢然排列せらるゝに過ぎずして、何等の組織系統あるを見ず。かくて今日甲の歌曲は教へられ、次の日乙の歌曲は授けられて、其間何等の連絡も理解も無くんば、如何てか此の科の眞の效果は收め得べき。宜べなり、學生は其讀譜力不充分に於て、音樂上の基礎的智識に乏しく、應用の能力亦缺くるを以て、世に出て、何等此の科の實際的効果の見べきもの無き事や。此の如くにして此科は、今猶ほ教育上將た社會上、やゝもすれば輕視せられ、將た度外視せられつゝあるの傾きあり。慨歎に堪へざるなり。

抑も洋式音樂は、其組織の學理的秩序的なる點に於て、教育上有要なる一地步を占むるものなり。然るにこの組織的なる洋式音樂が、我が教育上、然かく不秩序に取扱はれつゝあるは、頗る矛盾せる現象ならずや。而して余輩は、其然る所以が、前述の如く、理論と實科と相俟ち相應じて、歩々組織的教授を行ふに適すべき、綜合的教科書無きに因ること大なりと信ずるものなり。余輩はこの目的に適ふべき良書の編纂は、極めて至難の事業にして、到底余等淺學のよく之を完成し得べきに非ざることを知ると雖も、然かも不肯自ら量らず、たとへ尺寸たりとも、この樂界の一大缺陷を補はんことを希圖し、即ち歐米に於るこの種の書籍を涉獵參考し、先輩後進の意見と經驗とに聽き、作曲者唱歌者の大なる助力に俟ち、夙夜腐心推敲の結果、前後十年の星霜を閲して、僅にこの篇を輯綴することを得たり。この書固より未だ完璧を期すべしに非ずと雖、庶幾くは以上記の缺陷に對する、應急の要を充たすに足り、又將來道般の書を編まん人の爲に、幾分の參考と成るを得ば、編者が望外の光榮なり。本書中不備の點に關しては、追次之が訂正を期す。識者幸に垂教を惜む勿れ。

本書從來緒言を付、茲に大正九年三月、原版改修に際し、初刊當時の舊稿を求めて、以下の二表及凡例と共に追補す。

凡例 (教授者へ)

- 一、本書は師範學校、中學校、高等女學校等 中等程度の學校の音樂科教科用書に充てんが爲編したるものなり。
- 二、前頁に掲げたる二様の表中、第一表は、参考として、本書所載の教材を各學期の時間に配當し、其連絡、進度、成績等の様を示したるものなるが、諸學校に於ける該科の状況及授業時數等、固より一様ならざるを以て、教授者は適宜之を取捨斟酌せられんことを望む。この表は四卷を合せて一應通覽参照せられ度し。
- 三、本表の授業時數は、毎學期の始より、其期の末月の十日まで(爾後を試験期と見做し)の日數中より、祝日其他の休業日として、毎學期二週(四時間)を控除し、之を以て實際の授業時數と假定したるものなり(週割と月割とは空欄を存して記入に備ふ)。
- 四、樂典は、從來の如く、別冊によりて抽象的に講義する時は、頗る難解のものとなり、直ちに之を應用實習する方法を採れり。即ち理論科は各々實科の豫備又は説明となり、歌曲は理論の應用と成りつゝ、趣味と理解と兩々相俟ちて、漸次易より難に進むの組織によるものなり。されば若し所載以外の歌曲を取入るゝ場合には、其前後の連絡關係を考慮し、適當の場所へ之を挿まれんことを望む。
- 五、本書各學期間教材の分量は、最多限を含むものにして、これは學校の情况により、取捨に便せんが爲なり(殊に一理論科に對する應用例曲は、常に二曲以上を掲げたれば、適宜選擇する事を得べし)。
- 六、本書中理論科は、一卷二卷に於て歩々小分して説きたる所を、三卷以下に於て綜合補修し、唱歌科は、二卷は單音、三卷以下、輪唱、二重、三重唱と進み、四卷の末に少許の四重唱(單性)を載せたり(重音式唱歌は、或は其メロディーのみを取り、單音として授くるを得)。
- 七、本書は主として、理論と實科との秩序ある連絡を計りたるものなれども、然かもまた一面、該科の本來の目的たる、趣味の涵養に資すべき良歌曲の選擇に付ては、更らに一層の考究を費したり。其他「實施的綜合教授書」としての諸種の要項(例令ば豫備及復習の方法、基本教練の應用、歌曲上諸種の趣味の序次、配當、分量、邦人の作曲と洋曲との配當、分量、歌章と季節との關係等)に付ても、編集上夫々細心の注意を拂ひたるものにして、在來の唱歌集の如く、漫然歌曲を蒐集したるものとは、全く其撰を異にするものなり(前頁第二表参照)。
- 八、本書は教授の順序上、當初より音名、調名及調號を説かず。先づ諸種の調の階名の讀み方に熟せしめ、第二卷に入りて、初めて諸調音階構成法を説けり。必しもハ調を先きにするは唱歌上無意味なればなり(學生がハ調は讀み易く、イ調ハ調等は難しと成すは、從來教授上の缺點なり)。
- 九、高低の八音に對する、音名の區別法は、從來數字譜(略譜)の夫れと混同して、誤まれる者多し。本書には之を訂正したり。大字音、小字音は、歐字のA、B、Cとa、b、cとに相當せしめたる名なり。(本書第二卷十一頁及第三卷十九頁参照)
- 十、上記以外の事は追て教師用参考書を編して、之に詳記せんことを期す。
- 十一、本書別に同名の乙種本(文部省檢定済)あり。即ち或る種の學校に於ける、本書の生徒用本なり、
- 十二、本書中の歌曲は、前記文部省檢定済のものと同じなるものとす。
- 十三、【附言】 本書中の歌曲は、大正九年三月改刷の際、之を前記檢定済のものと同じに訂正したり。されば其以前のもの(共益商社書店發行)と本書とは、主として歌詞に於て多少の相異あるものとす。

中等音樂教科書卷の二



北村季晴編

目次

既習理論科の梗概(第一卷に説ける)第二卷より本書を用...自一頁至七頁

第一學期

歌曲

うぐひす雲雀.....八頁

第十四教 音名

音名.....譜表上の音名.....ト字記號.....「修練箇條」.....「問題」

歌曲

同窓の友.....嬰音及び變音.....一四

春の姿.....一六

目次

第十五教 音階の二……………二八

本位音及び變化音……………本位音中全音と半音との位置……………ハ調長音階……………長音階構成法……………ト調長音階……………調號

歌曲

あかつき……………三二

田家の少女……………二四

第十六教 音階の三……………二六

〔豫備箇條〕……………各長音階の名稱……………ニ調長音階……………イ調長音階……………本調長音階……………嬰種長音階……………嬰種長音階構成法の定義……………各嬰種長音階の調號

歌曲

端居の夕……………(轉位強聲)……………三〇

夏の曉……………三二

浦の夕立……………(三連音符)……………三四

祝日の歌……………三六

汽車の旅……………三八

海……………四〇

月見草……………四二

第二學期

第十七教 拍子の三……………四四

〔豫備箇條〕……………三拍子……………三拍子の種類……………四分の三拍子……………八分の三拍子……………問題

歌曲

我家……………四六

里の秋……………四八

秋郊……………五〇

稚き昔……………五二

第十八教 拍子の四……………五四

〔豫備簡條〕……六拍子……八分の六拍子……〔問題〕

歌曲

秋の聲……………五六

園生の竹……………五八

第十九教 音階の四……………五九

〔豫備簡條〕……へ調長音階……變口調及び變ホ調長音階……〔課題〕

……變種長音階……變種長音階構成法の定義……各變種長音階

の調號……〔問題〕

歌曲

樂しき農夫(反始記號終止記號等)……………六四

晚江……………六六

霜の朝……………六八

國旗……………七〇

田舎の夕暮……………七二

第三學期

心の力(再附點音符附點休止符)……………七四

第二十教 音程の二……………七六

〔豫備簡條〕……四度音程……完全四度及び増四度音程……五度音程

……完全五度及び減五度音程

四度音程練習曲……………七九

歌曲

雪なげ……………八〇

五度音程練習曲……………八三

木靈……………八四

第二十一教 發想の二……………八六

〔豫備簡條〕……速度標語……普通に用ゐらるゝ速度標語の解義

歌曲

春光……………八八

送恩師

九〇

第二十二教 音階の五

九二

〔豫備箇條〕……短音階……イ調短音階……短音階の階名……和聲

的及び旋律的短音階……長音階と短音階との差別

短音階練習曲……九五

歌曲

乳兒

九六

廢屋

九八

以上

中等音樂教科書卷の二目次終

〔注意〕本書第一卷を學び來りたる者は、必しも此の項を習ふを要せず、直ちに第八頁歌曲うぐひす雲雀より始むることを得べし。

既習理論科の梗概 (第一卷に説ける理論の摘要再説)

音樂に用ゐらるゝ聲音には、長短高低強弱等の差別あり。

音符 聲音を保持する間の長短を表はす記號を音符と云ふ。

休止符 聲音を黙止する間の長短を表はす記號を休止符と云ふ。

通常用ゐらるゝ所の音符並に休止符の種類及び其形狀は左の如し。

普通音符			休止符			附點音符		
								
全音符	二分音符	四分音符	全休止符	二分休止符	四分休止符	附點二分音符	附點四分音符	附點八分音符
								
八分音符	四分音符	十六分音符	八分休止符	四分休止符	十六分休止符			

音符及び休止符の長さは、拍數を以て之を計ふるを常とす。例へば全音符一個の長さを、四拍の間保持するものとすれば、二分音符は二拍間、四分音符は一拍間の長さに相當するが如し。

なほ附點音符の長さは、普通音符の長さに、其二分の一の長さを加へたるものに等し。

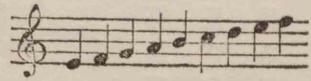
譜表

聲音の高低を區別せんには、五條の平行横線を書き、其線上と線間とに音符を排記して之を表示するものとす。(い圖)この五線を譜表と云ふ。

譜表の各線及び各間は、之を下より上に計へて、順次に第一線、第一間、第二線、第二間等と稱ふ。

譜表上に於ける音の高低は、其位置の高低と正比例す。例令へば第一線の音は第一間の音より低く、第二線の音は第一間の音より高きが如し。

い圖



加線

五線の譜表上に記載し得る所の諸音より、更らに高きか、または低き音は、譜表の上方又は下方に短き線を置き、其線上及び線間に音符を排記して之を表示す。(ろ圖)この短き線を加線と云ふ。

譜表の上方にある加線及び其間は、下より上に計へて順次に、上第一間、上第一線、上第二間、上第二線等と呼び、譜表の下方なるものは、上より下へ順次に、下第一間、下第一線、下第二間等と呼ぶものとす。

(譜表の首端に置かれたる記號の事は後章に述べたり。)

ろ圖



VIII	Do
VII	Si
VI	La
V	Sol
IV	Fa
III	Mi
II	Re
I	Do

音階 高低の諸音が、或る形式によりて、順次に相ひ連續せる所の階段を音階と云ふ。

音階の各階段間の距離には、全音と半音との別あり。

長音階 八個の音の階段にして、其第三音と第四音との間、及び第七音と第八音との間に半音を有し、他は全音なるものを長音階と云ふ。(は圖)

階名 長音階の各階段は、Do^レ、Re^レ、Mi^レ、Fa^ソ、Sol^ソ、La^ラ、Si^シ、Do^ドなる名によりて呼稱せらる。之を階名と云ふ。(は圖)

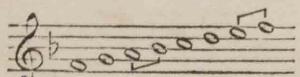
譜表上の階名 長音階は、譜表上何れの位置よりも始め得べし、而して其第一音Doが、譜表上其位置を變ずる時は、第二音Re以上の各階名も、亦從つて譜表上推移すべし。

例令へば(に圖)に示すが如く、第一線をDoとする時は、第一間はRe、第二線はMi、第二間はFa等の順序となるべく、

若しまた(ほ圖)に示すが如く、第一間を以てDoとする時は、第二線はRe、第二間はMi、第三線はFa等の順序となるべし。

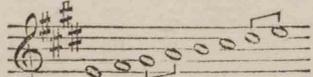
初學者は、先づ此の如く譜表上諸種の位置より始めたる音階に應じて、其階名の呼び別け方を修練すべし。

ほ圖



Do Re Mi Fa Sol La Si Do

に圖



Do Re Mi Fa Sol La Si Do

拍子 樂曲の進行するや、聲音に長短高低の變化あるは勿論、其強弱も亦平坦不變なるものにはあらず、必ずや一定の形式により、或る區間を隔て、順環的に音勢の存するものなり。この形式を名づけて拍子と云ふ。

曲節上、音勢ある部分を強聲部と云ひ、他の部分を弱聲部と云ふ。

縦線 樂譜上、各強聲部の前には、譜表を貫通する所の縦線を置きて之を表示す。

小節 縦線と縦線との間の一小區劃を小節と云ふ。

各小節間は、常に等一なる拍數を有するものとす。

拍子記號 拍子に種々の種類あり、樂譜の始めに算用數字を疊記して、或は他の記號を置きて之を表示す、拍子記號即ちこれなり。

二拍子 各小節間に二拍を有し、強弱、強弱と進行する所の拍子を二拍子と云ふ。

通常用ゐらるゝ所の二拍子に、四分の二拍子及び二分二の拍子の二種あり。

(一) 四分の二拍子とは、四分音符一個の値を以て一拍と定め、毎小節に四分音符

二個、若くはこれに相當する音符又は休止符の數を有するものを云ふ。其拍

子記號は $\frac{2}{4}$ なり。

(二) 二分の二拍子とは、二分音符一個の値を以て一拍と定め、毎小節に二分音符

二個、若くはこれに相當する音符又は休止符の數を有するものを云ふ。其拍子記號は $\frac{2}{2}$ 或は C を以て表はさる。

四拍子 各小節間に四拍を有し、強、弱、中強、弱の順序を以て進行する所の拍子を四拍子と云ふ。

通常用ゐらるゝ所の四拍子に、四分の四拍子及び八分の四拍子の二種あり。

(一) 四分の四拍子は、四分音符一個の値を一拍とし、毎小節に四拍を有する所の拍子にして、其拍子記號は $\frac{4}{4}$ 又は C と記さる。

(二) 八分の四拍子は、八分音符一個の値を一拍とし、毎小節に四拍を有する所の拍子にして、其拍子記號は $\frac{4}{8}$ なり。

強弱記號 樂曲には、拍子を構成する所の強聲部と弱聲部との順環的連續あるの外、更らに其曲固有の趣味を發揮せんが爲、曲の部分によりて、聲音に適當の抑揚強弱あるを要す。この様を示す所の記號を強弱記號と云ふ。

強弱記號には、多く以太利語若くは其畧字、畧號等を用ゐるものとす。第一卷第十二教

音程 或る音より或る音に至る二個音間の距離を音程と云ふ。

長音階中に含まるゝ音程を大別して、一度より八度に至る八種とす。

一度音程 同音はまたこれを一度音程と云ふ。

二度音程を別ちて長二度音程及び短二度音程とす。

長二度音程は即ち全音の義にして、短二度音程は半音の謂なり。

三度音程を別ちて長三度音程及び短三度音程とす。

長三度音程は二個の全音より成り、短三度音程は一個の全音と一個の半音とより成る。

(音程は曲節の要素なり、蓋し曲節は或る音程が連続せるものなればなり)

變化記號 譜表上或る音の高度を變更する記號を變化記號と云ふ。

通常用ゐらるゝ變化記號に、嬰(♯)、變(♭)及び本位記號(♮)の三種あり。

嬰とは某音を半音上ぐる記號にして、變(♭)は某音を半音下ぐる記號なり。

本位記號(♮)は、一旦嬰若くは變を以て、上げられ又は下げられたる音を、其本位に復する記號なり。

發聲基本練習 唱歌を組織する所の第一の材料たる、吾人の聲音に就き、其正しき

使用法に慣れしめんが爲、行ふ所の根本的修練を、發聲基本練習と云ふ。

發聲基本練習は大要之を呼吸法、聲區適用法、及び發韻法の三課に別つを得。

一、呼吸法 音量を増し、聲音を強固健全ならしめんが爲に行ふ所の、氣息吸入呼出の方法を呼吸法と云ふ。

呼吸法は、之を緩吸緩呼法、緩吸急呼法、急吸緩呼法及び急吸急呼法の四法に別つを得(第一卷第六教)

二、聲區適用法 高低諸區の聲音に對し、よく其區域に適當したる發聲法をとり、以て聲音をして溫雅婉美ならしむる方法を聲區適用法と云ふ。

人聲は其高低の區域に應じ、地聲、上聲、及び裏聲の三種に別つを得(第一卷第七教)

三、發韻法 歌謠の要素なる人語音韻の差別を學び、正しき語韻の使用に慣れしむべき方法を發韻法と云ふ(第一卷第八教)

既習理論科の梗概終り。

うぐひす雲雀

〔設問〕 一、譜表の首端にあるCこの記號は何を表はすものぞ。

二、當曲の各小節に於ける強聲部及び弱聲部の位置を問ふ。

歌曲 (うぐひす雲雀)

快活に ♩ = 120. (下第一線をDoとす)

mf

二 サクラバナニホヘルカタヲカノフモトチ
三 ヤヘがすみたなびくをかのへのみそらに

ホガラカノウグヒスゲニガモシロ
こわだかのびばりやげにおもしろ

dim.

f

ハルツゲドリーノサソヒニツレーナ
こころをのべのうれしきふしな

九

mf

ツタゴエチワレラモイザヤアゲム
うちつれてわれらもいざやうたはむ

歌曲 (うぐひす雲雀)

うぐひす雲雀

一、 櫻花匂へる 片岡のふもとを、

ほがらかなの鶯 げにおもしろ。

春告鳥の 誘ひにつれて、

うたごゑを吾等も いざや揚げむ。

二、 八重霞たなびく 岡の上のみ空に、

聲高の雲雀や げにおもしろ。

心をのへの うれしき節を、

うちつれて吾等も いざや歌はむ。

第十四教 音名

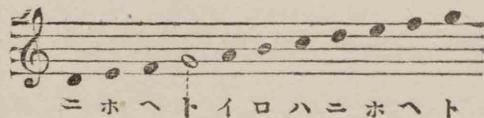
音名 各樂音は、其固有の高さを表明する爲に、一定の名稱を要す。即ちイ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、トの七文字を以て之に充て、之を音名といふ。音樂上に用ゐらるゝ音聲は、其數多しと雖も、皆前記の七文字を

反復重用して呼稱せらるゝものとす。

譜表上の音名 從來習ひ來りたる樂譜に於て、常に譜表の首端に  此の如き記號あるを視るべし。これト字記號と稱して、この記號の置かれたる所(即ち第二線)は、ト音なることを示せるものなり。

即ち譜表上諸音の位置は、此のト音を起點として、其上にはイロハ等、下にはヘホニ等と次第に數へて、之を指定し得るものと知るべし。(第二十圖)

第二十四圖



第二十五圖



第十四教 譜表上の音名

ト字記號はまた之を高音部記號と稱し、この記號の置かれたる譜表を、高音部譜表と呼ぶ。高度を異にする音にして、其音名の同一なるものは、其音域に従ひて、或は大の文字を用ゐ、或は文字に、小點を附して、之を區別す。(第二十圖)

小字音以上は、上圖(第二十五圖)に示すが如くにして、なほ四點小字音及び五點小字音に及ぶことあり、また小字音以下は、大字音(以呂波等)一點大字音(以呂波等)の如くにして表はさるゝこと、後章第二十四教に詳かなり。

〔修練箇條〕 (階名と音名)

〔設問〕 一、階名とは如何。

二、譜表の第一間をDoとする時は、其第二間及び第三線に在る音の階名は如何。

三、譜表の第二線をDoとする時は、其第二間及び第三線に在る音の階名は如何。

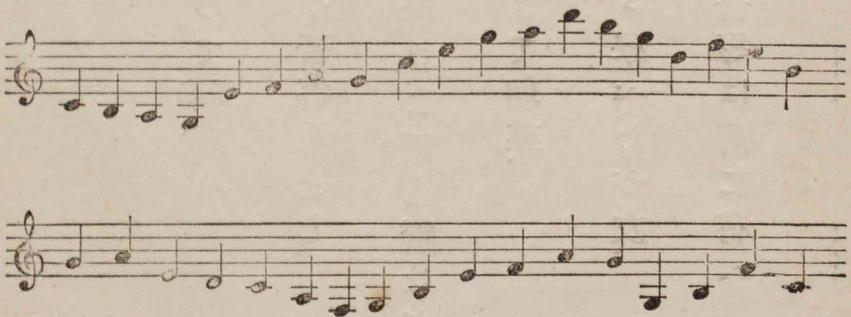
〔説示〕

一、階名は、音階の各階段に與へられたる名なるが故に、譜表上音階の第一音が移動するに従ひて、推移すと雖も、音名は、各個の樂音其者の固有の高さを表はす所の名なるを以て、移動すること無きものと知るべし。

二、譜表上の音名を、一目して指摘し得る様修練すべし。

問題

- (一) 譜表上に、高音部記號(ト字記號)の書き方を練習すべし。
- (二) 高音部譜表を畫き、下第二線より、上第二線に至る間に存する所の、イハホトの四音の總てを、二分音符を以て列記せよ。
- (三) 下記の諸音を、四分音符を以て譜表上に記載すべし。
ハヘニトホハロホイイロトイ
- (四) 下記の諸音に就き、各其音名を記せ。



同窓の友

一、同じ窓に教をうけ、書を読みて朝暮

國の爲と競ひゆく、げにや吾等勇まし、

道のゆくて吹けよ風、降れよ雨も厭はじ。

二、同じ庭に業を習ひ、道を聞きて朝暮

希望高く雲に置き、いよ、學べわが友、

國のさかえ御世の富、吾等は肩に荷へり。

同窓の友

〔設問〕 一、譜表の首端に在る  この記號の名稱及び其效用を問ふ。

二、當樂譜第一段に於ける各音の音名を問ふ。

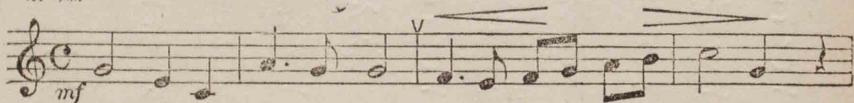
〔説示〕 一、當譜第二段第三小節に於けるへ音は、嬰の記號の付き居るを以て、之を嬰へ音と呼ぶ。

二、此の如く總て嬰若くは變の附けられたる音は、「嬰何音」若くは「變何音」と呼ぶものとす。

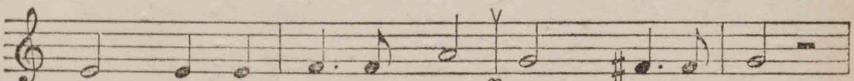
〔設問〕 三、復縦線に添へる小點の名稱及び效用如何。

(ハ音をDoとす)

靜肅に $\text{♩} = 96$.



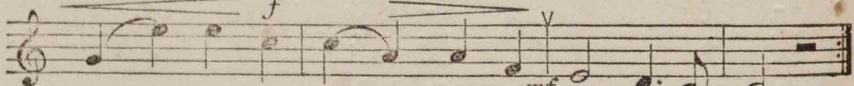
一、オ ナ シ マ ド ニ オ シ ヘ ナ ウ ケ
二、お な し に は に わ ざ を な ら ひ



フ ミ ナ ヨ ミ テ ア ケ ク レ
み ち な き き て あ げ く れ



{クミ} ニ ノ タ メ ト キ ソ ロ ユ カ クセ
{の} ゑ の た さ か か く え く も の お と き み



{ゲ} ニ ヤ ソ レ ラ イ サ マ シ
{わ} れ ー よ は ま か ー な た べ に わ に が な と へ も り

春の姿

一、軒の端につゞきて、はる／＼見ゆる野路山路。

見よ空晴れて日は麗かに、

木々花咲きて鳥友を呼ぶ。

いざ出で、遊べ春の野、いざ來ても見よや春の山。

皆和らぎの皆聲にして、げにのどやかな實に姿かな。

二、霞と共にうき立つ、春日の空のおもしろや。

見よ水上の木に鳥は啼き、

見よ川下の野に花は咲く。

風そらに高く唸りて、風草を撫で、そよ吹けり。

皆和らぎの皆聲にして、實にのどやかな實に姿かな。

春の姿

(へ音をDoとす)

曲により、譜表上何れの位置をDoとすべきかは、以下の第十五教及び第十六教を學びて後明かなるべし。
活快に ♩=120.

第十四教 歌曲(春の姿)

一、キノツマニツヅキテハルハル
二、かすみとともになうきたつはるびの

ミユルノヂヤマヂミヨソラハレテヒハ
そらのおもしろやみよみなかみのきに

ウララカニキギハナサキテトリトモチヨアイザ
とりばなきみよかばしものにはなはさくたこ

イデテアソベハルノノイザキーテモミヨヤ
そらにたかくうなりてかぜくーさをなでて

ハルノヤマミナヤハラギノミナコエニシ
そよふけりみなやはらぎのみなこゑにし

チゲニノドヤカノゲニスガタカナ
てげにのどやかなのげにすがたかな

一七

第十五教 音階の二

〔設問〕 一、音名とは如何。

二、變化記號の種類及び其效用を問ふ。

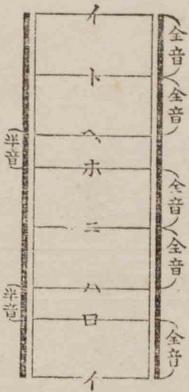
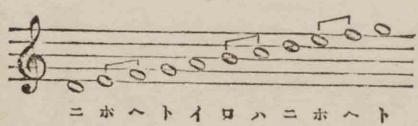
本位音 イ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、なる七種の音は、之を本位音といふ。

本位音の序列中、ホとへとの二音間及びロとハとの二音間は本來半音にして、他の二音間は皆全音なるものとす。(第六圖)

譜表上、この半音と全音との位置は、嬰若くは變を附するにあらざれば、變はることなきものとす。

變化音 本位音に嬰若くは變の記號を附して、之を半音高め、若くは低めたる音を變化音(又は遷位音)といふ。

第二十六圖



今イ音より次ぎのイ音に至り、又はロ音より次ぎのロ音に至るが如く、八個の本位音のみを以て成れる所の音列の種類を列記すれば左の如し。(第二十圖中の括弧「即ち半音」の位置に注意すべし。)

第二十七圖



〔設問〕 三、長音階に於ける全音と半音との位置を問ふ。

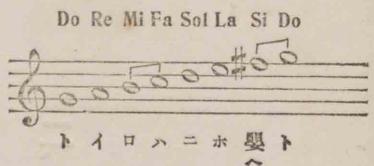
八調長音階 前記の各本位音の序列中、其全音と半音との位置が、自然に長音階の格に適へるものは、唯ハよりハに至る八音の序列のみなり。(第二十圖丙)之を八調長音階といふ。

長音階構成法 長音階は、何れの音よりも之を始め得べしと雖も、ハより始めたるもの(即ちハ調長音階)の外は、其固有の半音の位置、皆長音階の格に適はず。(圖參照)故にハ調以外の長音階は、皆必ず變化記號を用ゐて、半音の位置を變更し、其音列をしてハ調長音階と同格ならしめざるべからず。この方法を長音階構成法と云ふ。

此の意義よりハ調長音階はまた模範長音階とも稱せらる。

ト調長音階 今ハ調長音階の第五音(即ちト音)より始められたる音階の音列を視るに、(第二十圖庚)其第一音より第六音に至る迄の音列は、長音階の格に差ふことなし。然るに其第六音ホと第七音ヘとの間は半音、又其第七音ヘと第八音トとの間は全音にして、長音階の格に差へり。乃ち第七音ヘに嬰を附し、之を半音高めて、嬰ヘ音となすときは、

第二十八圖



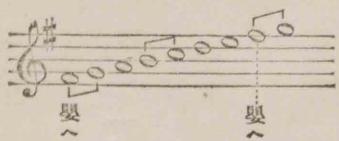
Do Re Mi Fa Sol La Si Do

トイロハニホ嬰ト

第六音と第七音との間は全音、第七音と第八音との間は半音となりて、こゝに始めて長音階の格に一致したる一音階を得べし。(第二十圖)これ即ちト調長音階なり。

調號 右の如く、半音の位置を變更して、音階を構成するが爲に用ゐる所の變化記號は、一々之を其音符の前に附記せずして、豫め譜表の首端(ト字記號の次ぎ)に記し置くものとす。之を調號と云ふ。(第二十圖)從來學び來れる歌曲に於て下第一線をDoとしたるもの(ハ調)の外は、皆譜表の首端に、一個以上の嬰又は變の附記せられざるを視るべし、これ即ち調號なり。

第二十九圖



嬰 嬰

- (一) ハ調長音階は、調號を有せず。
- (二) 一嬰を有する長音階は、ト調なり。

あかつき

- 〔設問〕 一、 當曲は何調なりや。
 二、 譜表の何所をDoとすべきや。
 三、 當樂譜第一段と第二段に於ける各音に就き、順次その音名と階名とを語れ。
 四、 當曲中に於ける強弱記號を説明せよ。

第十五教

歌曲(あかつき)

晴朗に ♩ = 104.

二、
 三、
 三三
 三三

あしたの思よ、わが世の果てまでかくてあれな。
 あしたの心よ、わが世のはてまで消えであれな。
 雲間の星影 消えてゆけば、
 み空はしらく、風はそよく。
 たのしうれし、
 うれしたのし、
 あさの心地。
 たのしうれし、
 うれしたのし、
 あさの心地。
 消えであれな。

第十五教 歌曲(あかつき)

あかつき

一、 雲間の星影 消えてゆけば、
 み空はしらく、風はそよく。
 たのしうれし、
 うれしたのし、
 あさの心地。
 二、 天の戸あけゆく あさ日影は、
 あなたの波間に 今ぞのぼる。
 たのしうれし、
 うれしたのし、
 あさの心地。
 三、 消えであれな。
 あしたの心よ、わが世のはてまで
 消えであれな。

田家の少女

一、五月雨はれて日は出でぬ、

今日是我田の田植せん、

水もゆたかに苗青し、

來れや妹たすきして。

二、田植の歌はこゝかしこ、

はやおもしろく聞えきぬ、

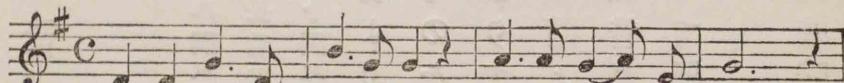
空よく晴れて日はあつし、

忘るないもと菅笠を。

田家の少女

- 〔設問〕 一、當曲は何調にして何拍子なりや。
 二、譜表の首端、ト字記號の次ぎに置かれたる、嬰の效用を問ふ。
 三、當樂譜第三段に於ける各音の、音名と階名とを語れ。

樂しげに ♩ = 116.



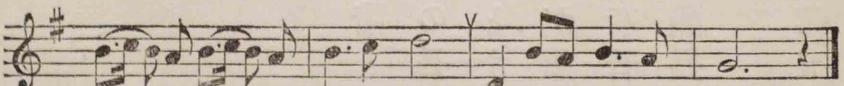
一、サミダレハレテセハイーテメ
 二、たう原のうたはここかーしこ



ケフーーーもワガタノタウエセシ
 はやーおもしーろくきこえきぬ



ミーズモエタカニナヘアーチーシ
 そらよーくーはーれてひはあーつーし



キーダレーヤイモトタスキシテ
 わーするーないもとすがーがさな

第十六教 音階の三

〔豫備箇條〕

〔設問〕 一、ハ調長音階とは如何。

二、長音階構成法とは如何。

三、ト調長音階の構成法を説け。

各長音階の名稱。ハ音より始めたる長音階を、ハ調長音階と云ひ、ト音より始めたるものを、ト調長音階と呼ぶが如く、他の長音階も亦、皆其第一音によりて、之が名稱を與へらるゝものとす。

ニ調長音階 ハ調長音階よりト調長音階を構成したるが如く、更にト調長音階の第五音(ニ)を以て新音階の第一音とし、新音階の第七音(ハ)を半音高めて嬰音とする時は、こゝにまたニ調長音階を得べし。(圖の第三十)

イ調長音階及びホ調長音階 右の如く、漸次に前音階の第五音を

以て新音階の第一音とし、新音階の第七音を嬰音に変更する時は、更にニ調よりイ調を得、又イ調よりホ調を得べし。(第三十圖)

第三十圖

ニ調長音階

ト調長音階

イ調長音階

ニ調長音階

ホ調長音階

イ調長音階

上圖に於て、前音階の上半部は、新音階の下半部に相當することを見るべし。

嬰種長音階 以上の如く、音階中に一箇以上の嬰音を含む所の長

音階を總稱して、**嬰種長音階**と云ふ。
嬰種長音階構成法の定義 嬰種長音階構成法とは、原音階の第五音を以て、新音階の第一音とし、ハ調長音階の音列を標準として、嬰を使用して音階を構成するの法なり。

〔設問〕四、調號とは如何。

今前記の各嬰種長音階の調號を示せば左の如し。(第三十圖)



一樂曲が何調の音階より成れるか(換言せば譜表の何所をDoとすべきか)は、主として其調號によりて之を識別し得るものとす。今記憶に便せんが爲、更らに各嬰種長音階の調號に於ける、嬰の數を示せば左の如し。

- 一嬰を有するものはト調なり。
- 二嬰を有するものはニ調なり。

三嬰を有するものはイ調なり。

四嬰を有するものはホ調なり。

〔設問〕五、調號を有せざるものは何調ぞ。

調號は、音階中に含める變化音の數を示すと同時に、其位置をも表はせるものにして、また必ず音階構成法の順序に従つて排記せらるべきものなり。(第三十一圖参照) 故に嬰種長音階に於ては、其調號中、最終に附けられたる嬰のすぐ上に、必ず其調の第一音(Do)あり、蓋し最終の嬰は、常に其調の第七音に附けられたるものなればなり。(第三十一圖参照)

嬰變等の記號は、前記の如く、音階の調を表はす爲に用ゐられたる場合には、之を調號と云ひ、又樂曲の進行中、臨時に一二の音符にのみ附けられたる場合には、之を變化記號第十三教と云ふものと知るべし。
(この意義より變化記號はまた臨時記號と稱せらる。)

〔前記諸調の調號に於ける各嬰音の數と、其名と、其排記順序とを、暗記すべし。〕

端居の夕

一、涼しさをゆすりて そよめくや小笹の、
夕風に 吹かれて
あゝ月こそ出でたれ。

妻琴

郭公のひびき 今もや一聲をうれしと
なおりてぞ出づらん、

あゝおもしろの夜や。

二、川風はざんざと おとづる、園生の、

松が枝を ほのかに あゝ出でたる月影。

木々の葉の夜露 したゝりて落ち、

隣家の話の 聲々もとだえて、

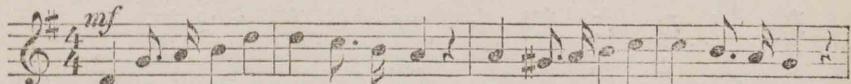
涼しくも更け行く、
あゝ夏の夜半かな。

端居の夕

- 〔設問〕 一、 當曲は何調なりや。
二、 帶とは如何當曲中に於ける帶を指摘せよ。
三、 四拍子に於ける強聲部と弱聲部との位置を問ふ。
- 〔説示〕 一、 或る弱聲部の音と、其次ぎに位する同高度の強聲部の音とが結合して一聲音と成る時は、強聲部の音勢は轉じて前の弱聲部に移るものとす、之を轉位強聲(Syncopation)と云ふ。
二、 當曲中*標あるものは即ち轉位強聲なり。

第十六教 歌曲(端居の夕)

快活に ♩ = 120.



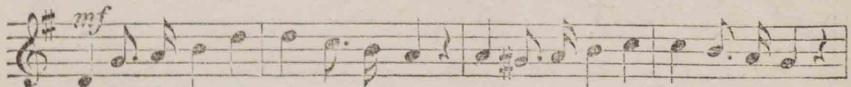
三、 スズシサチ ヌスリ テ ソヨメクヤチザサノ
かはかぜは ざんざと おとづるるそ のふの



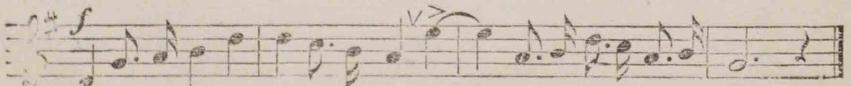
エフカセニ フカレテアーツキヨソイデ ターレ
まつがえな ぼのかに あいでたるつき かーげ



ツマゴトノヒビキ ホノカニモシテ
まぎのはのよつゆ したたり ておち



ホトリギス イマモシヤ ヒトコエチウレシト
となりやの はなしの ひとこゑもと だえて



ナノリテソ イヅラ ンア オモシロノヨヤ
おぞしくも ふけゆ くあ ー なつよはが な

三一

夏の曉

- 〔設問〕 一、當曲は何調なりや。
 二、譜表の何所をDoとすべきや。
 三、樂譜の首端にある $\text{G}\# \text{C}$ の三記號の各名稱及び效用を問ふ。

〔説示〕 拍子記號は、 T 字記號及び調號の如く、譜表の各段には記入せず、曲首にのみ記すものとす。

流暢に $\text{♩} = 80$.

mf

ソカ ヨキ フレ クカ カカ ゼラ ムル アあ ケさ ー ソが メほ テの ー ー
 サ ハ ベ ニ カ ヲ トラ ムル ハ ナ ー ハ チ ス ー ー

ノは キバ ノス ズノ オ ト ー スレ ー マば
 ヒ ナ ク カル オ ト トラ ムル ハ ナ ー ハ チ ス ー ー

シヒ ノブ グサ サヘ メサ ー マシテ ー
 ミ とつ ぼし さへ のこ ー リあデ ー
 ミ ズ ト リ ノ ユ メ サ メ ー ヤ ラ デ ー

アサ コソ ナ ツ ー ハス ズ ー シケレ
 ア サ ロソ ナ ツ ー ハス ズ ー シケレ
 ア サ ロソ ナ ツ ー ハス ズ ー シケレ

夏の曉

- 一、そよ吹く風に 軒端の風鈴の 明けそめて、
 忍草 さへ 目さまして、 おとすれば、
- 二、垣根にからむ 朝 涼しけれ、
 花さかぬまに 朝 顔の、 起きみれば、
- 三、ひとつぼしさへ 残り居て、
 朝こそ夏は をかしけれ。
 澤邊にかをる 花はあす、
 ひらくる音を 尋め来れば、
 水鳥の夢 さめやらで、
 朝こそ夏は のどかなれ。

浦の夕立

〔説示〕 一、 三個の音符を、一拍間に、平等の歴時に分ちて奏唱すべきものを、三連音符と云ふ。
 二、 三連音符は通常弧線を以て三個の音符を連結し、3の字を附記して表示せらる。
 〔設問〕 當曲の中に於ける三連音符を指摘せよ。

活潑に ♩ = 108.

カセニヨロホヒ タツハ マノアチスース キ
 二. 三. ふ るやひぢがさ あめい まははれゆーきて
 ナピクハズエノ ウヘ オキノクモクローシ
 ヤまになごりの くもとほくただしーるし
 マソコガツリ アネ ヒダリマタミギニ
 いそのえにつな げる こじょうきのきてき
 イソクミソラノ ウイナヅ マーシーローシ
 なりてでふれを つげけぶりをーはーけーり
 ノノシルヤアマノーコエ イソチウツナミノロービキ
 こほりやののきのーは たうみかぜにひらりひーらり
 タチコチニウ チサーラグ ウラザトノユフダチ
 ふかれてはす ずしすずし うらざとのゆふぐれ

浦の夕立

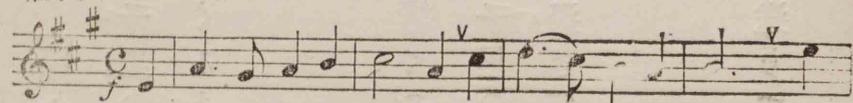
一、 風によるぼひ立つ 濱の青芒、
 靡く葉末のうへ 沖の雲黒し。
 島回漕ぐ釣船 ひだりまたみぎに、
 急ぐみ空の上 いなづま白し。
 の、しるや海士の聲、磯を打つ波のひゞき、
 遠近にうちさわぐ、浦里のゆふだち。
 二、 降るやひぢ笠雨 今は晴れゆきて、
 山になごりの雲 遠くたゞ白し。
 磯の江に繋げる 小蒸瀲の瀲笛
 鳴りて出船を告げ 煙を吐けり。
 氷屋の軒の旗 海風にひらりく、
 吹かれては涼しく 浦里の夕暮。

祝日の歌

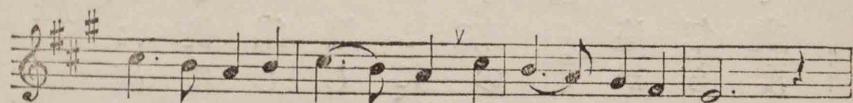
- (設問) 一、當曲は何調なりや。
 二、譜表の何所をDoとすべきや。

第十六教 歌曲(祝日の歌)

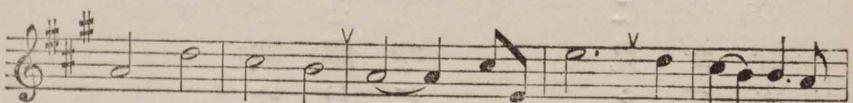
壯大に ♩ = 108.



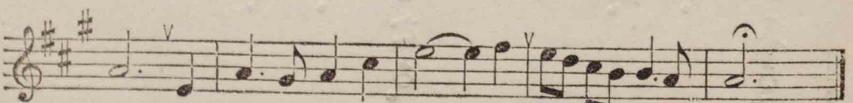
一、メ デ タ キ ケ フ ノ イ ハー ヒ ビ ヲ ウ
 二、か だ に か か ぐ る ひ の ー み は た き



タ ゴ エ タ カ ー ク ウ タ ー ヒ ッ ツ
 み が よ う た ー ふ う な ー る こ の



タ ノ シ ト ヨ ー ベ ー バ モ リ ー カ ゲ
 う た に ぞ つ ー れ ー て う ら ー な み



ニ タ ノ シ ト カ ヘ ー ス コ ー ダ ー マ カ ナ
 も し ら べ あ は せ ー て よ ー す ー る か な

三七

第十六教 歌曲(祝日の歌)

祝日の歌

一、めでたき今日の祝日を、
 歌聲たかくうたひつゝ、

たのしと呼べば 森陰に、
 たのしと應す 木精かな。

二、かどに掲ぐる 日の御旗、

君が代歌ふ うなるこの、
 うたにぞつれて 浦波も、
 しらべ合せて 寄するかな

三六

① 汽車の旅

- 〔設問〕 一、當曲は何調なりや。
 二、音符の上又は下に附記せられたる小點は何の效用をなすものぞ。

第十六教 歌曲(汽車の旅)

快活に ♩ = 84.

mf

一、チ サ ト ノ ヤ マ サ カ ヒ タ バ シ リ
 二、ち さ と の の や ま を つ か の ま に

f

カ ル マ ハ ケ アー リ ナ アー トー ニ シ テ ター
 す ぎ ゆ く た びー ち の おー もー し ろ や はー

ノ シ ノ ノー ツ ミ ナ ノー セ ユー ク トー キ サー
 る か の みー そ ら に みー え たー る やー ま たー

レ シ ノ ター ビ ナ チ カー ケ ユー ク ト キ
 ち ま ち きー た り て やー が てー は ゆ く

mf

ロ ビ ク ヤ ソ ダ チ ノ ト ド ロ キ ニ
 お くり て む か へ て い く た び か

コ コ ロー モー ソ ラー ニ ソ イー サー ム ナ ル
 あ ま たー のー の やー ま は まー どー に い る

三九

第十六教 歌曲(汽車の旅)

汽車の旅

- 一、千里の山坂ひたばしり、
 くるまは煙を後にして、
 樂しの希望を載せ行く時、
 嬉しの旅路を駆け行く時、
 響くや轍の轟きに、こゝろも空にぞ勇むなる。
- 二、千里の野山を束の間に、
 過ぎ行く旅路の面白や、
 遙かのみ空に見えたる山、
 忽ち來りてやがては行く、
 送りて迎へて幾度か、數多の野山は窓に入る。

三八

海

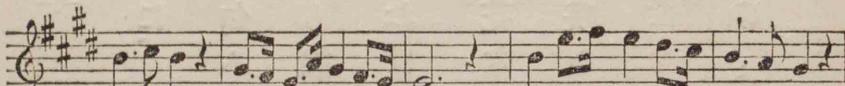
〔設問〕 當曲は何調なりや。

第十六教 歌曲(海)

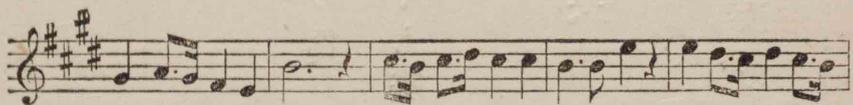
壯麗に ♩ = 100.



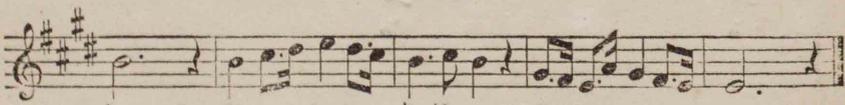
一. イソベニ タチテ ナーガムレバ アナーココ
二. ふねこぎ いでて ながむれば げにしづ



チヨキ ソーダノハラ アナーウルハシキ
かなる うかのおも げににぎはしき



アサーヒカゲ ヨーセーグルナミハ ハナートサー
ふねのかす はとばのきしは ながくし



キ アーヒノーカゲハ ターマートチール
て たゆたふなみに おともなし

四一

海

一、磯べに立ちて ながむれば、

あな心地よき わだの原、

あなうるはしき あさひ影、

よせくる波は 花と咲き、

あさひのかげは 玉とちる。

二、舟こぎ出でて ながむれば、

げに静なる 海のおも、

げに賑はしき 舟のかず、

波止場の岸は 長くして、

たゆたふ波に 音もなし。

月見草

〔設問〕 一、當曲は何調何拍子なりや。

二、不備小節とは如何。

第十六教

歌曲(月見草)

流暢に ♩ = 80.

mf

一 イソヤマノポールユフーヅキニ
二 たれにはぢら一ふはな一なれば

ホノボノニホーフツキーミグサ
ひそかにさき一てつき一みぐさ

mp

ユメニモニタルハナーノイコ
このよをしの一ぶここ一ろぞや

四三

mf

オボツカーナークモサキ一ソメテ
ゆふべを一な一れ一のいの一ちにて

第十六教 歌曲(月見草)

月見草

一、磯山登る夕月に、

ほのく句ふ月見草、

夢にも似たる花の色、

おぼつかなくも咲き初めて。

二、誰に恥ぢらふ花なれば、

ひそかに咲きて月見草、

この世を忍ぶ心ぞや、

ゆふべを汝の命にて。

四二

第十七教 拍子の三

〔豫備箇條〕

- 〔設問〕
- 一、二拍子の小節に於ける、強聲部と弱聲部との位置、及び二拍子の種類を問ふ。
 - 二、四拍子の小節に於ける、強聲部と弱聲部との位置、及び四拍子の種類を問ふ。

三拍子 一小節間に三拍宛を有する所の拍子を三拍子と云ふ。

第三十二圖

強弱弱 強弱 強弱弱 強



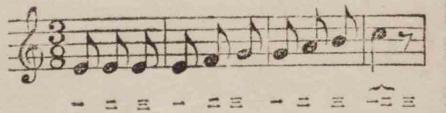
三拍子の樂曲に於ける各小節は、第一拍強、第二拍及び第三拍弱の順序を以て進行するものとす。

三拍子の種類 普通に用ゐらるゝ所の三拍子には、四分の三拍子及び八分の三拍子の二種あり。

(一) 四分の三拍子 四分の三拍子とは、四分音符一箇の値を以て一拍と定め、毎小節に四分音符三個、若くは之と同等の歷時を有するものを云ふ。其拍子

第三十三圖

強弱弱 強弱弱 強弱弱 強



- 記號は $\frac{3}{4}$ なり。(第三十圖)
- (二) 八分の三拍子 八分の三拍子とは、八分音符一箇の値を以て一拍と定め、毎小節に、八分音符三個、若くは之と同等の歷時を有するものを云ふ。其拍子記號は $\frac{3}{8}$ なり。(第三十圖)

問題

- (一) 各小節に、成るべく異りたる音符を用ゐて、四分の三拍子六小節を記載すべし。
- (二) 左の樂譜に就き、正しき位置へ縦線を記入すべし。

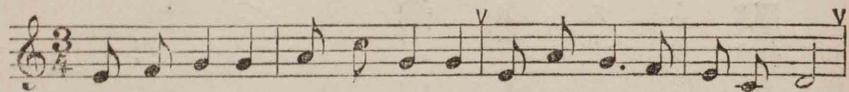


我 家

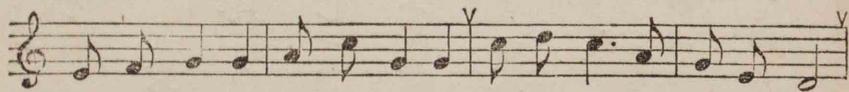
〔設問〕 當曲は何調何拍子なりや。

第十七教 歌曲(我家)

楽しく ♩ = 100.



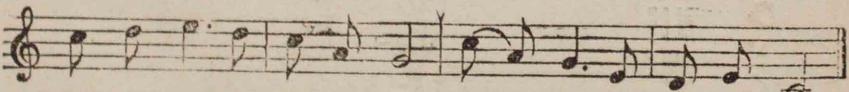
一、イザイザカヘランタノシキイヘニ
二、かへればとりまくあねあにいと



チチアリハハアルタノシキイヘニ
うれしきえがほはさくらかもか



マハギノミダルルハナノハユケド
うぐひすなかねどこてふはこねご



コ ロ サ ビ シ ヤ イ ー ザ カ ヘ ラ
た の し み つ き め い へ こ そ は る ン

四七

第十七教 歌曲(我家)

我 家

一、いざく歸らん樂しき家に、

父あり母ある樂しき家に、

眞萩の亂るゝ花野は行けど、

心寂しやいざ歸らん。

二、歸ればとりまく姉兄妹

うれしき笑顔は櫻か桃か、

驚なかねどこてふは來ねど、

樂しみつきぬ家こそ春よ。

四六

里の秋

〔設問〕 當曲は何調何拍子なりや。

溫和に ♩ = 104.

ノの ドク キソ ラコ ハル ノの サと ナを ア
 キヤ イ ヅ コ ター ヅ ホク レバ まか ウ
 ナガ ツー ムー ゲル イト ガル マー ノー ホリ ユ
 ルク モー ルル ー ド ノ ソ ト ニ ウ
 スラ クリ ほ ろ り ユ フ ヒ ハ ト シ テ ウ
 カチ セー トー カチ ホル ズ キ パー ター ケ ナ ト
 フヤ ー トー ン ホリ マー フキ ヤテ ヤ ャ ン マー ア
 フサ リ キル サリ ヲガ ム モヒ ノガ ヒ ホビ ニク

第十七教 歌曲(里の秋)

四九

第十七教 歌曲(里の秋)

里の秋

一、のどけき空、小春の里を、秋や何處尋ね來れば、

嫗がつむげる絲車の音、ゆるく漏るゝ窓の外に、

薄く白く夕日はさして、裏口背戸口ほゞつき畑を、

飛ぶやとんぼ舞ふややんま、あふささるさ我もの顔に。

二、のどけき空、小春の里を、秋や何處尋ね來れば、

門守る犬ころ眠に耽りて、人もあらぬ庭の上に、

はらりほろり栗の實落ちて、軒端に繋げる鳴子の引綱

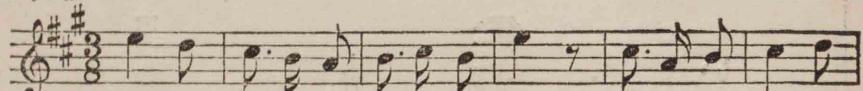
風折りく吹きてゆらぎ、からりころり夕日にひゞく。

四八

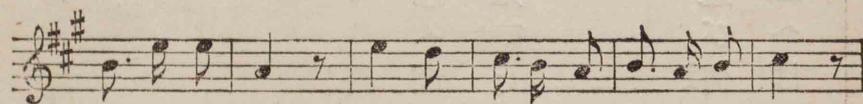
秋 郊

〔設問〕 當曲は何調、何拍子なりや。

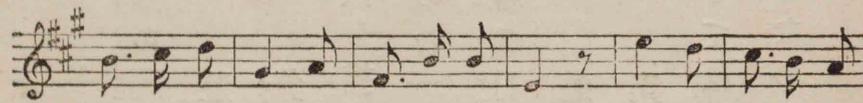
快活 = ♩ = 168.



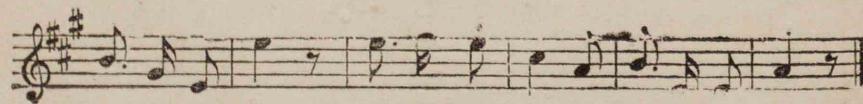
一. イザキタレワガトモ アキハイマ
二. いざゆかんわがとも あきにいざ



マサカリ ツユシロシハギハラ
ふけらん きぎやまにもみぢし



カゼハヨシカハノベ ナクムシハ
ちぐさの にほへり なくかりは



クサマニ タマノネヲヒビカス
みそらに こゑもすむこのごろ

第十七教 歌曲(秋郊)

五二

第十七教 歌曲(秋郊)

五〇

秋 郊

一、いざ來れ我友、秋はいままさかり。

露しろし萩原、風はよし川の邊。

鳴く蟲は草間に、玉の音をひびかす。

二、いざ行かん我友、秋にいざ耽けらん。

木々山に紅葉し、千草野に匂へり。

鳴く雁はみそらに、聲もすむこの頃。

をさなき昔

一、里わの川の流に、やなぎの陰の繩手に、

遊びし友、

集ひし友、

蜻蛉を釣るや終日、丁斑魚を捕るや朝暮。

思へば、稚のむかしこひしや。

二、鎮守の森の木陰に、御寺の椽の日向に、

遊びし友、

集ひし友、

いつもの遊び何々、飯事さては鬼事。

思へば、をさなの昔なつかし。

をさなき昔

〔説示〕 當曲最終の小節に、一點小字ホ音と、二點小字ホ音とが共に記されあるは、便宜兩者の何れを歌ふも可なることを示せるものなり。

第十七教

歌曲(をさなき昔)

五三

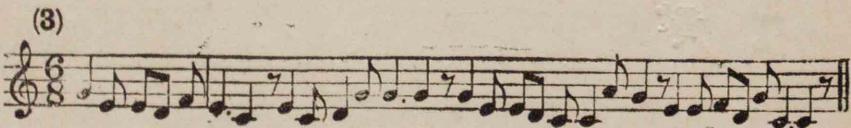
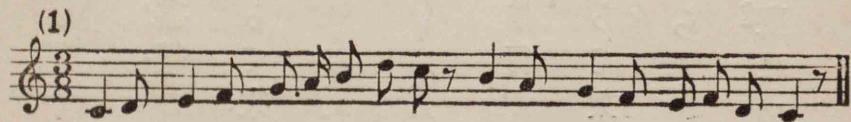
おそく、溫和に ♩=104.

三、

サチニ トンジウ ノカモハリ ノナガレニ
 ヤミナテ ギラノカエケン ノナハナテニ
 アニソビシ トモツニ ドヒシトモ
 ヤニツマノツルヤビヒナニモナ
 メニダカチトタヤハアケクレ
 オオモヘニバ オオモヘニバ
 ナニサナノムカシヨソシヤ

問題

- (一) 成るべく異りたる音符を用ゐて、八分の六拍子四小節を記載すべし。
- (二) 下記の楽譜に就き、正當の場所へ縦線を記入せよ。



第三十四圖



六拍子 一小節間に、六拍づゝを有する所の拍子あり、之を六拍子と云ふ。

六拍子に於ける各小節の、強聲部と弱聲部との位置は、第一拍強、第二拍及び第三拍弱、第四拍中強、第五拍及び第六拍弱の順序によるものとす。

通常用ゐらるゝ所の六拍子は、八分の六拍子なり。

八分の六拍子 八分の六拍子とは、八分音符一個の値を以て一拍と定め、毎小節間に八分音符六個、若くは之と同等の歴時を有するものを云ふ。拍子記號は $\frac{6}{8}$ と記さる。(第三十圖)

第十八教 拍子の四

〔豫備簡條〕

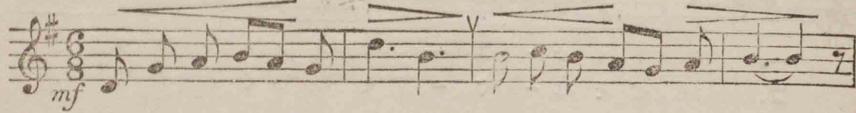
〔設問〕 三拍子に於ける強聲部と弱聲部との位置、並に三拍子の種類を問ふ。

秋の聲

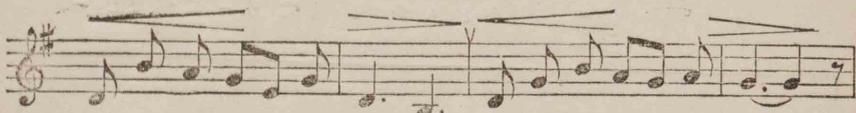
〔設問〕 當曲の拍子に付て知る所を述べよ。

第十八教 歌曲(秋の聲)

閑和に ♩ = 100.



一 ツキノノーキバニ フミヨムーヨハ一
二 ねやのとーもしび ふけゆくーよは一



ツクエノーウヘニ オチテクールハ一
まくらのーもとにおちてくるは一



ハタハタ ハタトキ スタノーオト一
はらはら はらとこのはのーおと一

五七



キリキリ ハタリム シノナークネ一
ろごゑに にたるか りのな一くね一

第十八教 歌曲(秋の聲)

秋の聲

一、月の軒端に書續む夜半、

机の上に落ちて来るは、

はたくはたと砧のおと、

きりくはたり蟲の鳴音。

二、閨の燈火更け行く夜半、

枕の下に落ちて来るは、

はらくはらと木の葉の音

櫓聲に似たる雁のなくね。

五六

園生の竹

〔設問〕 當曲は何調何拍子ぞ。

流暢に ♩ = 160

一、 ミドリナースーソノノナヨタケラ
二、 かぜそよぐーそののくれたけわ

カクトモーンモニモカヘノミサーチアリ
かくともゆみともやともなりぬべし

園生の竹

一、 緑なす園のなよ竹

わかくとも、

霜にもかへぬ

みさをあり。

二、 風そよぐ園の吳竹

わかくとも、

弓とも矢とも

なりぬべし。

第十九教 音階の四

〔豫備箇條〕

- 〔設問〕 一、 嬰種長音階構成法とは如何。
二、 嬰種長音階の種類を問ふ。

嬰種長音階に於て、原音階の第五音に、漸次新音階を構成したるが如く、第四音(即ち下行第五音)にもまた追次新音階を構成し得べし。

へ調長音階 今ハ調長音階の第四音へを以て第一音となしたる、音階の音列を検するに、(第二十七圖の已参照)其第三音イと第四音ロとの間、全音にして長音階の格に適はざるをみるべし。

乃ち第四音ロに變を附し、之を半音下げて變ロ音とする時は、こゝに長音階の格に適ひたる一新音階を得べし。これ即ちへ調長音階なり。(第三十五圖)

第三十五圖

へ ト イ 變 ロ

第十九教 へ調長音階

變口調長音階及び變ホ調長音階、ハ調長音階よりへ調長音階を構成したるが如く、順次に、前音階の第四音(即ち下行)を以て新音階の第一音とし、新音階の第四音を變音に改むる時は、更にへ調より

變口調を得、また變口調より變ホ調を得べし。(第三十、六圖)
上圖に於て、前音階の下半部は、皆新音階の上半部に相當することを視るべし。

第三十六圖

一、へ調長音階

Do	Si	La	Sol	Fa	Mi	Re	Do
8	7	6	5	4	3	2	1
8	7	6	5	4	3	2	1
Do	Si	La	Sol	Fa	Mi	Re	Do

變口調長音階

二、變口調長音階

Do	Si	La	Sol	Fa	Mi	Re	Do
8	7	6	5	4	3	2	1
8	7	6	5	4	3	2	1
Do	Si	La	Sol	Fa	Mi	Re	Do

變ホ調長音階

(課題)
上と同一の方法により、譜表上に於て、變ホ調長音階の第四音より、次ぎの新音階を構成すべし。

變種長音階 前記の如く、音階中に一個以上の變音を含む所の長音階を總稱して、**變種長音階**と云ふ。

變種長音階構成法の定義 變種長音階構成法とは、原音階の第四音を以て、新音階の第一音とし、ハ調長音階の音列を標準として、變を使用して音階を構成するの法なり。

今前記の各變種長音階の調號を示せば左の如し。(第三十、七圖)

第三十七圖

へ調

變口調

變ホ調

變イ調

變種長音階に於ては、其調號中、最終に附けられたる變の位置より、第四度下に其調の第一音(D₀)あり。

(變口調以下は終りより第二の變ある所が、第一音の位置なりともみるを得べし。)

今また記憶に便せんが爲、各變種長音階の調號に於ける、變の數を示せば左の如し。

- 一 變を有するものは へ 調なり。
- 二 變を有するものは變口調なり。
- 三 變を有するものは變ホ調なり。
- 四 變を有するものは變イ調なり。

「前記諸調の調號に於ける、變音の數と、其名と、其排記順序とを暗記すべし。」

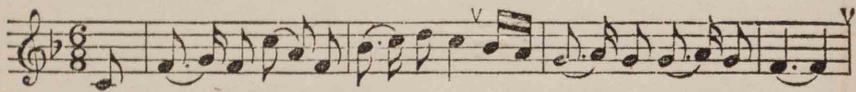
問題

- 一、 既習の各嬰種及變種長音階の調號を、譜表上に列記せよ。
- 二、 譜表上に、ト調及びニ調長音階の、各第三音、第五音、及び第七音を記載すべし。
- 三、 小字イ音より始めて、イ調長音階の音列二箇を、譜表上に記載すべし。
- 四、 ホ調長音階の第二音、第四音、及び第六音の音名を問ふ。
- 五、 へ 調長音階の第二音、第四音、及び第七音の音名を問ふ。
- 六、 變口調及び變ホ調、長音階の各第三音、第五音、及び第七音を、譜表上に記載すべし。

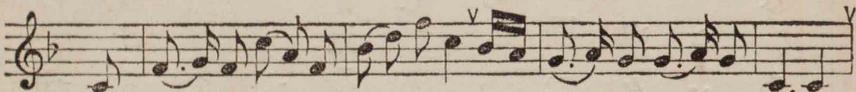
晚 江

〔設問〕 當曲は何調何拍子なりや。

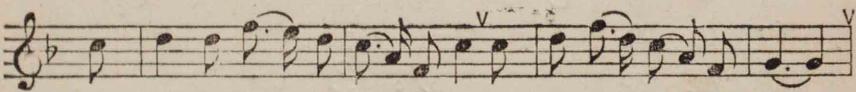
流麗に ♩ = 120.



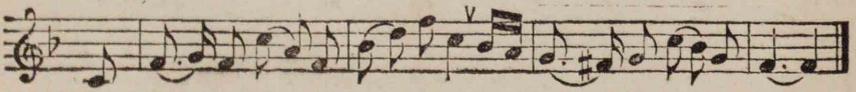
一. ユ フーヒノーイリーウミナーミモナーギテ
二. あびきのこゑごゑいまはくれて



イソベノマツノミソラニコエ
ともしのほかげはとこゝろどこゝろ



シラホノカゲサヘイマホキエテ
しづけきなみにうつりそめて



ヤスラニグレユクアーマノトマヤ
たのしきまどゑのよるはいざよふ

第十九教 歌曲(晚江)

六七

第十九教 歌曲(晚江)

六六

晚 江

一、夕日ゆひひの入海いりみ 波も風なみきて、

磯邊いそべの松のみ 空そらに聲こゑす、

白帆しろふねの影かげさへ いまは消きえて、

安やすらに暮くれ行く 海士うみこの苦くる屋や。

二、網引あびきの聲こゑ々 今いまは暮くれて、

燈火ともしの火影ひかげは ところところく、

しづけき波間なまに 映うつり初はじめて、

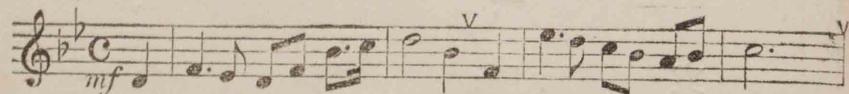
樂たのしき圓居まどの 夜よるはいざよふ。

霜の朝

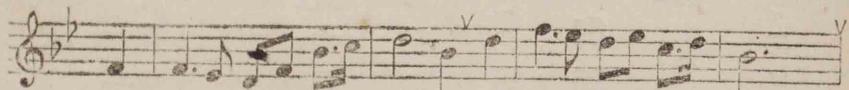
〔設問〕 當曲は何調なりや。

第十九教 歌曲(霜の朝)

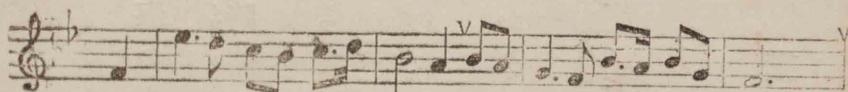
流暢に ♩ = 80.



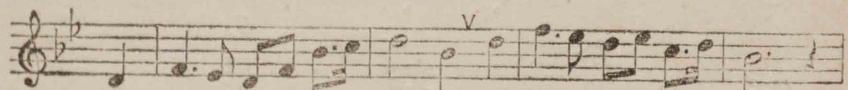
一. ミユキトーガケルカドタノシーモ
二. さぎりながるるあしたのーかーは



アサヒニデーリテシロクヒーカール
わたるいーたーばししもはしーるーし

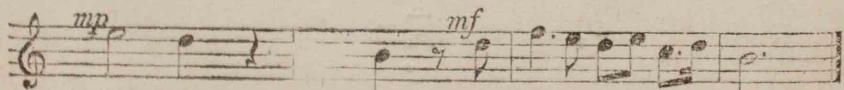


コズエニノーコルカーキノヒートーハ
せぜもゆーめーよりいーまやさーめーし



ミルモサームーグニユラギユーラーグ
さざめくーらーたのこゑのきーよーさ

六九



ア ナ ア ナ ケ サ ノ サームーサ
あ な あ な こ ゑ の きーよーさ

第十九教 歌曲(霜の朝)

霜の朝

一、み雪と置ける門田かどたの霜
朝日に照りて白く光る。

こずゑに残る柿ひとの一葉は
見るも寒げにゆらぎゆらぐ。

あな あな 今朝けさの寒さ。

二、狭霧せき流るゝあしたの川、
渡る板橋霜は白し。

瀬々も夢より今や覺さめし、

さゝめく歌の聲の清さ。

あな あな こゑの清さ。

六八

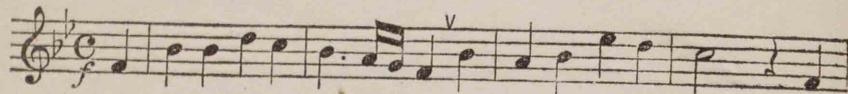
國 旗

第十九教

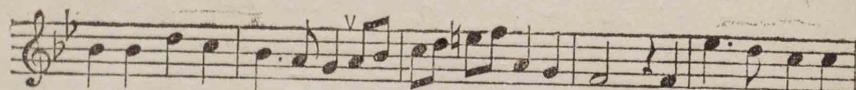
歌曲(國旗)

- 〔設問〕 一、當曲は何調なりや。
 二、當樂譜の第二段第三小節に於ける
 本位記號は、如何なる效用を爲すぞ。

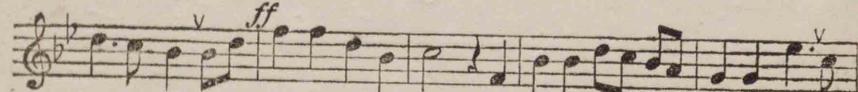
壯快に ♩ = 100.



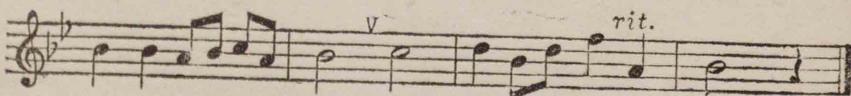
一、アガユクフナヂーノウ ミノハテモ
 二、てるひのひのまーるたかきところみ



ガユククガヂノミーチーノハテモ ミツラノア
 くにのみいつのかーがーやーきありひがしのく



マツヒテーラスカギリ ミクニノヒーノハタラ
 にびとにーしのひとら われらのーさーさぐるは



レチマールヤ スラーノヨヤ
 たのもーとーにつ どひーきたれ

七一

第十九教 歌曲(國旗)

國 旗

一、わが行く舟路の 海の果ても、
 わが行く陸路の 道の果ても、

御空の天つ日 照らす限り、
 御國の日の旗 われを守る、安らの世や。

二、照日の日の丸 たかきところ、
 御國の御稜威の かゞやきあり、

東の國人 西の人ら、
 われらの捧ぐる 旗の下に、集ひ來れ。

七〇

田舎の夕暮

〔設問〕 一、 當曲は何調、何拍子なりや。
 二、 音符に3の字の附記されたるは如何。

第十九教 歌曲(田舎の夕暮)

沈靜に ♩ = 66.

一、 ユ フ グ ノ ケー ムー リ ハ モー リ フ コ メー
 二、 ゆ ら そ ら たー どー るー たー び が らー

テ ト ヤ マ モ ミー ヤー マ モ ウー ス レ ユ ケー
 イ お と のー さー きー なる こー ち ち ち

ス イー リ ヒ モ ヤー マ ベ ニ イー ソ ギー ユ
 ら ふー り さ け みー ー れ ば やー ま でー ら

ク ナー ハ チ ノ ナー ミ キ ニ カー セ サ ▲
 の たー のー いー ら か の かー げ く る

ク タ ド ル ヤ マー ゴ ノ ウー タ コ エ
 く ひー と り し づ か に くー れ の こ

モ タ ソ ガ レ ソー メー タ ル ユー フ ス カ ナ
 る の ち のー さー とー わ の ゆー ふ ぶ か な

七二

第十九教 歌曲(田舎の夕暮)

七二

田舎の夕暮

一、 ゆふげの烟は 森をこめて、
 外山も深山も うすれ行けば
 入日も山邊に 急ぎゆく、
 曠の並木に 風寒く、
 辿るや馬子の うたごゑも、
 黄昏れ初めたる 夕かな。

二、 夕空辿る 旅鳥
 後や先なる 聲々や、
 ふりさけ見れば 山寺の、
 塔のいらかの 影黒く、
 ひとり靜に 暮れ残る、
 野路の里わの ゆふべかな。

心の力

一、この世に生れて空しく果てんや、
 鐵石の腸われにあり、
 苦しみ來よ、憂事來よ、
 日頃の覺悟をいざや示さん。
 これこそわれらの守れる主義なれ、

二、曇らぬ心に充ちたる勢力は、
 山をもゆるがす強さあり、
 これを頼み、これに憑り、
 いのちの限りをわれは振はん。
 これこそわれらの守れる主義なれ、
 これこそわれらのねがひなれ。

心の力

〔説示〕 一、二個の附點を有する音符を、再附點音符と云ふ。
 二、再附點音符の歴時は、普通音符に其四分の三の音長を加へたるものに等し。

$$♩.. = (♩ + ♩ + ♩) \quad ♩.. = (♩ + ♩ + ♩)$$

三、一點を附記せられたる休止符を、附點休止符と云ふ。其歴時は附點音符に等し。

〔設問〕 一、當曲中に於ける附點休止符を指摘せよ。
 二、當曲は何調なりや。

濶大に ♩ = 104.

三、
 コノヨニウマレテムナシクハテシヤ
 くもらぬこころにみちたるはちからは
 テアセキノハラワダツレニアリ
 やまをゆるがすがす強さあり
 クルシミタヨミウキコトヨリヒ
 ゴロノカクゴリアイザヤシメサン
 のちのかきりをあははふるはん
 コレこそわれらのねがひなれ
 コレこそわれらのねがひなれ

第二十教 音程の二

〔豫備箇條〕

〔設問〕 一、音程とは如何。

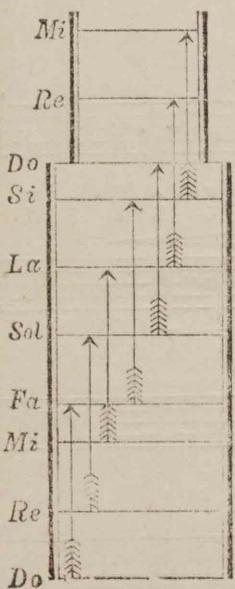
二、音程練習の目的を問ふ。

三、短二度音程及び長二度音程とは如何。

四度音程 甲乙二音間の距離、四度に渉るものを**四度音程**といふ。長音階中に含む所の四度音程を分ちて、**完全四度音程**及び**増四度音程**の二種とす。

完全四度音程は二箇の全音と一箇の半音とより成り、**増四度音程**は三箇の全音より成る。(第三十圖)

第三十八圖

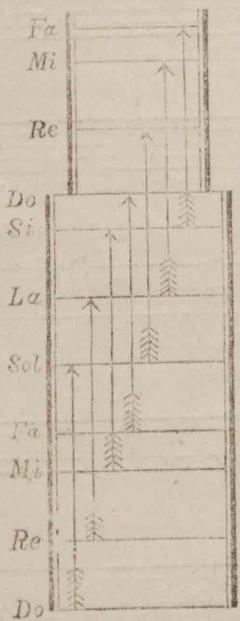


長音階の音列中、**増四度音程**は、FaよりSiに至るもの唯一箇のみなり。
増四度音程はまた之を**三連全音**とも呼べり。

五度音程 甲乙二音間の距離、五度に渉るものを**五度音程**といふ。長音階中に含む所の五度音程を分ちて、**完全五度音程**及び**減五度音程**の二種とす。

完全五度音程は三箇の全音と一個の半音とより成り、**減五度音程**は二箇の全音と二箇の半音とより成る。(第三十圖)

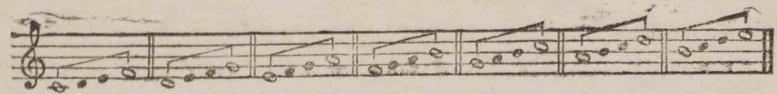
第三十九圖



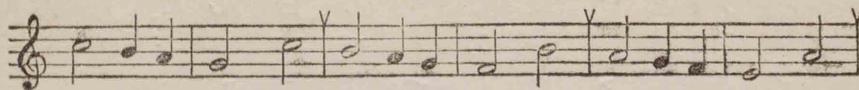
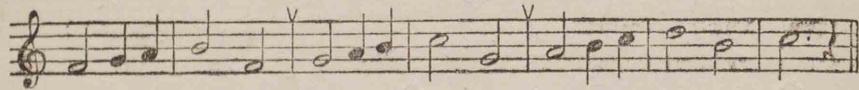
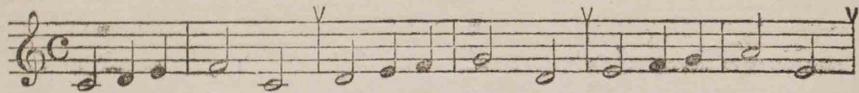
長音階の音列中、**減五度音程**は、SiよりFaに至るもの唯一箇のみなり。

四度音程練習曲

第二十教 四度音程練習曲



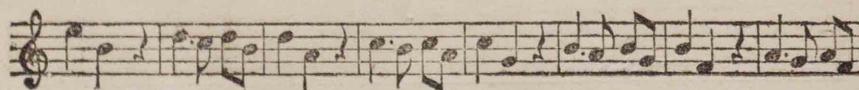
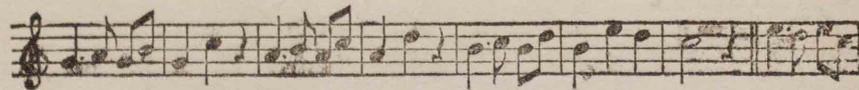
(1)



(2)

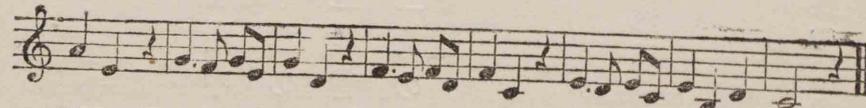


七九

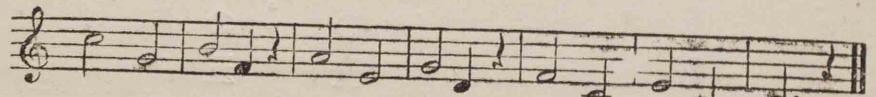
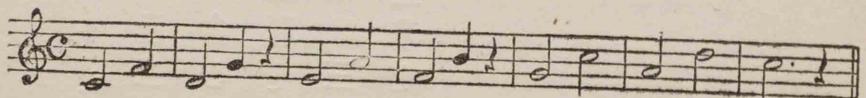


四度音程練習曲(つゞき)

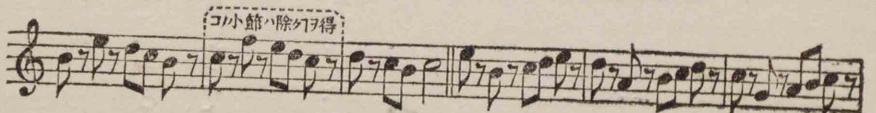
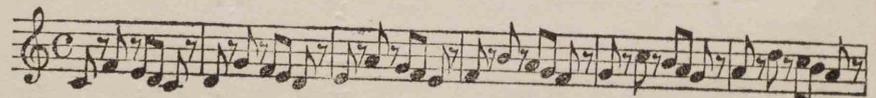
第二十教 四度音程練習曲



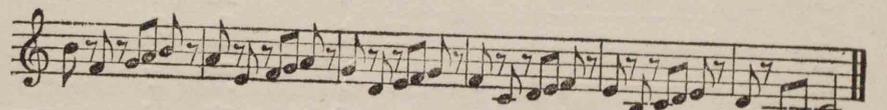
(3)



(4)



(5)



七八



雪なげ

〔設問〕 一、當曲に於ける強弱記號を説明せよ。

二、休止符の種類を問ふ。

〔説示〕 音符に十六分音符ある如く、休止符にも亦十六分休止符あり、當曲末段に於て其例をみるべし。

第二十教

歌曲(雪なげ)

勇壯に $\text{♩} = 120$

一、 コヨヤ ミカタノツハモノ コノアサゾラニヒ
二、 こよや みかたのつはもの このたそがれにひ

トイクサ イザイザナガン コノユキノタマ
といくさ いざいざなげん このゆきのたま

百ハツヒヤクチウ ソガウテニアキ 猛進奮闘ウ
亂ばつらんしゃ めにものみせん 電光石火ウ

テウテ スハキツハモノウテウテウテ
てうてすはきつはものうてうてうて

八一

第二十教 歌曲(雪なげ)

八〇

雪なげ

一、 こよや 味方の つはもの、

この朝ぞらに 一合戦、

いざいざなげん この雪の弾、

百發百中 我がうでにあり、

猛進奮闘 うてく、

スハヤ つはもの 撃てくく。

二、 こよや 味方の つはもの、

この黄昏に 一いくさ、

いざいざなげん この雪の弾、

亂發亂射 目にも見せん、

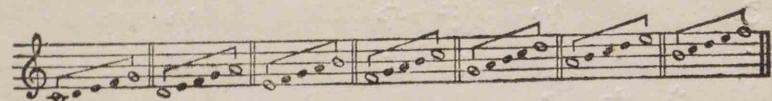
電光石火 うてくく、

スハヤ つはもの うてくく。

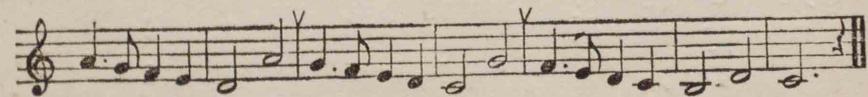
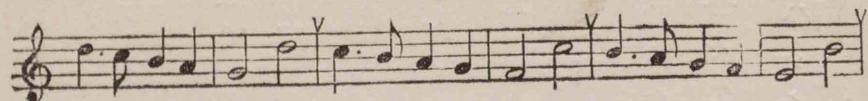
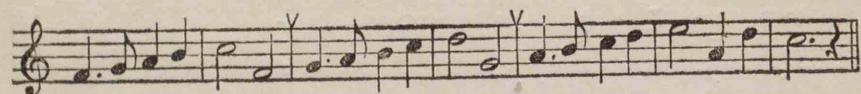
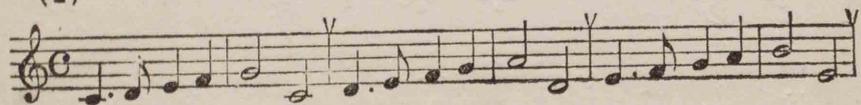
五度音程練習曲

第二十教

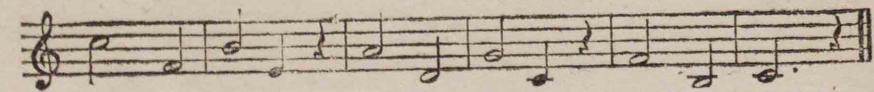
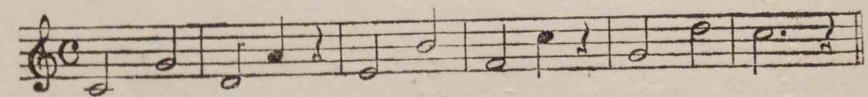
五度音程練習曲



(1)



(2)



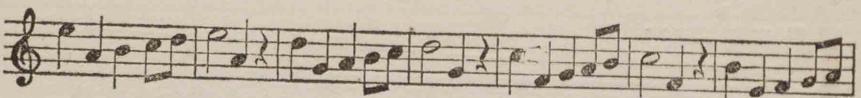
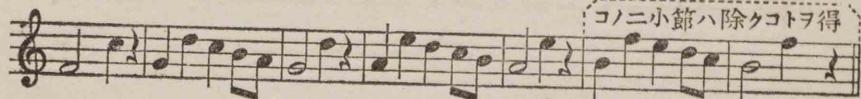
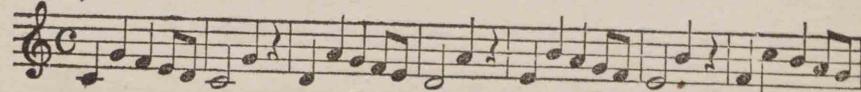
八三

五度音程練習曲(つゞき)

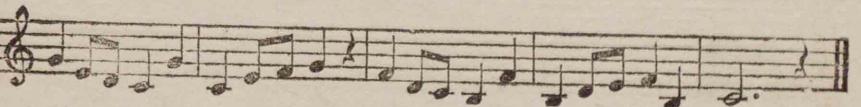
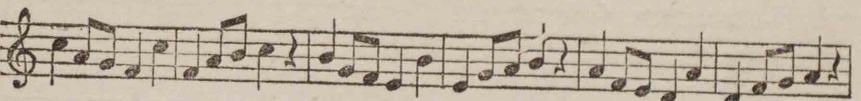
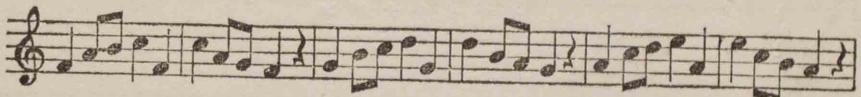
第二十教

五度音程練習曲

(3)



(4)



八二

第二十一教 發想の二

〔豫習簡條〕

〔設問〕 一、發想法とは如何。

二、強弱記號とは如何。

〔説示〕 樂曲の趣味は、聲音の強弱弛張の差によりて表はさるゝのみならず、また其速度緩急の差によりて發想せらる。

速度標語 樂曲の想に應じて、其遲速緩急の様を表示する所の術語あり。之を速度標語といふ。

速度標語は、多くは以太利語を用ゐ、樂譜の首め、若くは特に速度の變化を要すべき部分に於て、譜表の上部に附記せらる。

凡そ樂曲は、其趣味に應じて、其速度に、平穩緩徐なるもの、或は輕快急速なるもの等、種々の差別あり。又一樂曲中に於ても、往々其速度が促りて急速となり、又は鎮まりて緩徐となる等の變化を要する場合もあり。蓋し速度緩急の差異は、直ちに曲の趣致に關するものなれば、唱歌者は種々の樂曲に對し、よく其曲意に相應したる速度と精神とを以て、之を唱謠せん事、極めて緊要なりと知るべし。

今最も普通に用ゐらるゝ所の速度標語と、其略解とを示せば下の如し。

(1) 急速進行に屬するもの。

^{プレスト}Presto. 若は ^{ヴィヴツェ}Vivace 極めて速く。
^{アレグロ}Allegro. 又は其略 *allegro*: 頗る速く。(且つ快に)
^{アレグレット}Allegretto 稍速く。
^{モデラト}Moderato 中庸の速度に。

(2) 緩徐進行に屬するもの。

^{ラルゴ}Largo 極めて遅く。(且つ壯に)
^{ラルグETTO}Larghetto. ... ^{レント}Lento. 若は ^{アダチオ}Adagio 頗る遅く。
^{アンダンテ}Andante 遅く。(且つ平に)
^{アンダントチノ}Andantino 稍遅く。

(3) 一部分の速度の延促に關するもの。

^{リタルダンド}Rit. (Ritardando の略) 漸次に遅く。
^{ラルランタンド}Rall. (Rallentando の略) 漸次に速く。
^{アツチエラント}Accel. (Accelerando の略) 一旦速度の弛

み又は促りたる後、元の速さに復るべきを示す。

^{アドリビタム}ad lib. (ad libitum の略) 唱奏者の想ひにより適宜の速度にて。

第二十一教 速度標語

八七

樂曲の速度を一層精密に(機械的に)表はさんには、拍節機(Metronome)と稱する機器の度数を記して、一分時内に奏せらるべき音符の個數を定むるを以て、最も確實なりとす。

(速度標語等に關しては、なほ後章に詳かなり)

春光

一、桃の花は湖の、あなたこなた咲きに咲き、

空も水もあけに染む。

水も空も春の日の、うらゝなるに酔にけむ。

あはれあな、あなあはれ、

花も水も酔ひたりや。

二、鳥は群れて空に鳴き、川は野邊を辿り行き、

水も空も私語り。

空も水も春の日の、どかなるを歌ふやらむ。

あはれあな、あなあはれ、

鳥も川も歌ふたりや。

春光

- 〔設問〕 一、當曲は何調なりや。
- 二、當曲に於ける強弱記號竝に速度標語を説明すべし。
- 三、當曲第六段より第七段に涉る速度緩急の様を説け。

Allegretto ♩ = 100.

二、モト モリ ノハ ヌナレ ハテ ミソ ヅラニ ミナ ノキ
 アカ ナハ タハ コノ ナベ タサタ キド ニリ サキ
 ソミ ラヅ モミ ヅラ モア タギ ニメ ヅリ
 ミソ ヅラ モソミ ラヅ モハ ルー ノヒノ
 ヲラ ナル ニエ ヒニケラ ム
 アハレ アナ アナ アハレ
 ハト ナリ モミカ ヅハ モエウ ヒタタリ ヤ

第二十一教 歌曲(春光)

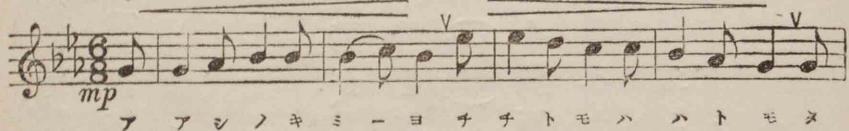
八九

送 恩 師

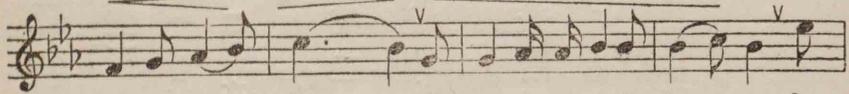
〔設問〕 本曲に於ける速度標語を説明せよ。

第二十一教 歌曲(送恩師)

Andante ♩ = 120.



ア ア シ ノ キ ミ ャ チ ト モ ハ ハ ト モ ヌ

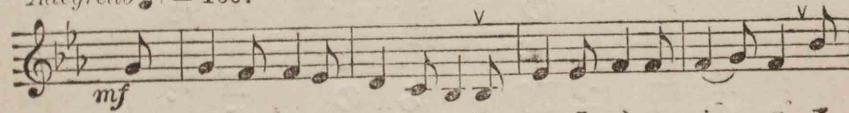


ノ ミ シ ナ イ マ コ コ ニ キ ミ ハ ト



ホ キ ク ニ ベ ニ タ チ タ マ フ

Allegretto ♩ = 160.



フ カ キ ミ ナ シ ヘ ハ ヲ レ ラ ノ ム ネ ニ ア



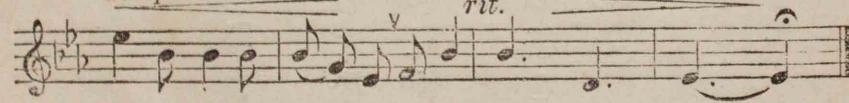
ツ キ ミ コ コ ロ ハ ヲ レ ラ ガ キ モ ニ キ

Andante ♩ = 120.



ザ ミ テ ト モ ニ ナ ガ ク ヲ ス レ メ ヤ サ

a Tempo.



ラ バ サ ラ バ ノ キ ミ

九一

第二十一教 歌曲(送恩師)

送 恩 師

あゝ師の君よ、父とも母ともたのみしを、
いまこゝに君は、遠き國へにたちたまふ。

深きみ教へは我等が胸に、

厚き御こゝろは我等がきもに、

刻みてともにながく忘れめや、

さらばよさらば師のきみよ。

九〇

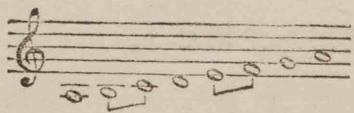
第二十二教 音階の五

〔豫備箇條〕

- 〔設問〕 一、長音階の格とは如何。
- 二、本位音の序列中、自然に長音階の格に適へる音階とは如何。

短音階 音階が、其第二音と第三音との間、及び第五音と第六音との間に半音を有し、他は悉く全音なるものは、之を短音階といふ。

第四十圖



(第四十圖)

イ調短音階 本位音の序列中、自然に短音階の格を備へたるものは、イよりイに至る八音の一系列のみなり。

(第十九頁第二) これをイ調短音階といふ。(第四十圖)

イ調短音階は、諸種の短音階の音列の標準となること、恰も長音階に於けるハ調長音階の如し、故にまた之を模範短音階とも稱す。

第四十一圖

VIII Do	(短音階)	VIII La
VII Si		VII Sol
VI La		VI Fa
V Sol		V Mi
IV Fa		IV Re
III Mi		III Do
II Re		II Si
I Do	(長音階)	I La

短音階の階名 短音階の音列は、恰

も長音階の第一音(Do)の、短第三度下(La)より始まりたるものに相當すべし。乃ち其階名もまた便宜第

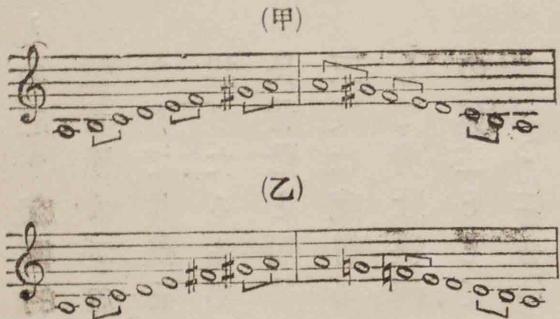
一音をLaとして、順次上圖の如く稱へらるるものとす。(第四十圖)

和聲的短音階及び旋律的短音階 短音階は、之を實際に用ゐるに當り、また左の如き二種の形式あり。

(甲) 第七音を半音高めたるもの、之を和聲的短音階といふ。(第四十圖甲)

(乙) 其上行の際、第六音と第七音とを、各々半音高め、下行の際には、之を本位に復する

第四十二圖



短音階練習曲

第二十二教 短音階練習曲

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

九五

第二十二教 短音階

九四

もの之を**旋律的短音階**といふ。(第四十圖乙)

長音階及び短音階の、長短の意義は、音階の第三度が、前者にありては、**長三度**にして、後者に於ては、**短三度**なるによりて起りたるものなり。

長音階と短音階との特質、長三度は其性質快活にして、短三度は幽鬱の趣きあり、故に長音階より成れる樂曲は、主として勇壯快活等の想を表はすに適し、短音階より成れるものは、主として悲哀寂寥或は可憐等の情を寫すに適せり。

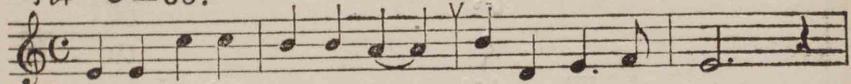
なほ短音階に關する細説は後章に掲げたり。

乳 兒

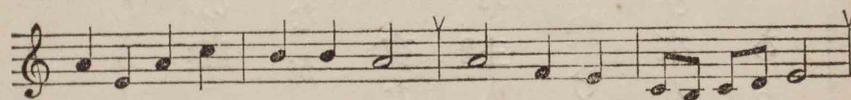
〔説示〕 當曲はイ調短音階より成れり。從來學
び來りたる長音階のものに比して、自
ら可憐の趣きあることを味ふべし。

第二十二教 歌曲(乳兒)

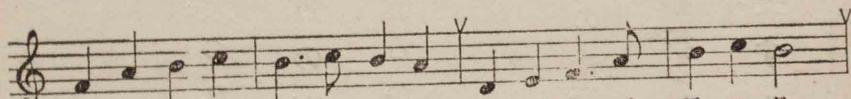
可憐 = ♩ = 88.



一. ハーハノ カヒナニ ミナヨ セテ
二. あーかれ もめんの こまくら くら
三. クサバニ カカル ツユ ノイ ト



ニコニコ ヲヲフ チゴノ エーガーホ
すやすや れむる ちごの れーがーほ
メダミア マネキ ハハノ ナーサーケ



シロガネ コガネ トカズカズ アレド
つきゆきはなとり いづれはあれど
サ△レバ アソバセ ネ△レバ マモリ



ウヘナキ セカイノ タカラハ コレヨ
たとへも しられぬ いろかは これヨ
カ△トキ ヲスレヌ オモヒハ チイヨ

九七

第二十二教 歌曲(乳兒)

乳 兒

一、

母のかひなに身をよせて、

白金黄金とかがずぐあれど、

上なき世界の寶はこれよ。

二、

茜木綿の小枕に、

すやく眠る乳兒の寐顔、

月雪花鳥いづれはあれど、

譬へもしられぬ色香は是よ、

三、

草葉にかゝる露のごと、

めぐみあまねき 母のなさけ

さむれば遊ばせ眠れば守り、

片時わすれぬ思ひは乳兒よ。

九六

廢 屋

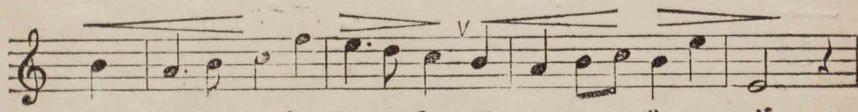
〔説示〕 當曲もまたイ調短音階より成り、
其曲節自ら寂寥の趣味あり。

第二十二教 歌曲(廢屋)

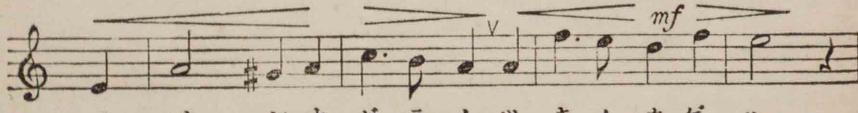
Andante ♩ = 66.



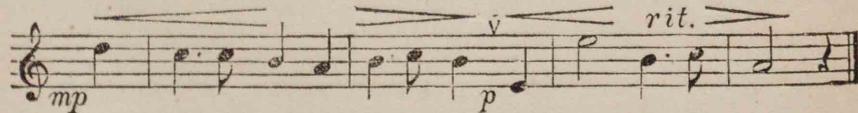
一. フ モ ト ノ フ ル ヤ ク サ ノ イ ホ
二. い く と せ ふ る や ぬ し も な き



ス ム ヒ ト ナ ク シ テ ア レ ハ ツ レ ド
か ど べ に さ け る さ く ら の は な



ム カ シ ナ ガ ラ ノ ツ キ ノ カ ゲ ハ
と ひ くる ひ と も た を る ひ と も



ヨ ナ ヨ ナ ヤ ド ル カ イ タ ビ サ シ
あ ら し に ま か す は る の く れ

九九

第二十二教 歌曲(廢屋)

廢 屋

一、 麓ふもとの古屋ふるや住む人も、

あらしの底そこに荒れ果つれど、

昔ながらの月の影は、

夜なく宿るか板びさし。

二、 いく年としふるや主ぬしもなき、

門邊かどに咲ける櫻の花、

訪とひ来る人も手折たざる人も、

あらしに委まかする春の暮。

九八

中等音樂教科書卷之二終

明治四十一年四月一日印刷
明治四十一年四月七日發行
大正十三年一月廿五日十五版發行

不許複製

甲二
定價金七十五錢

編者 北村季晴
東京市外下目黒四二六

發行者兼 弘樂社出版部
東京市外下目黒四二二

印刷者 代表者 佐藤辰巳

印刷所 英文通信社印刷所
東京市外下目黒四二二

發行所 弘樂社

(振替東京 四五九五九
電話高輪 一四三七)

廣島市堀川町本通

販賣所 花坪樂器店

1979.6.24

◎ 目概書樂音版出社樂弘 ◎

北村季晴著(文部省検定済)
○音程教則本 (十二年度) (臨時定價)

○中等音楽教科書(乙種)(同)

○中等音楽教科書(甲種)(同)

○縮冊 ホームマン(卷一)

○ヴァイオリン三の位置教本

北村季晴作
○叙事唱歌 須磨の曲

○叙事唱歌 離れ小島

○叙事唱歌 露營の夢

○青柳振作編 ハーモニカ名曲集

○弘楽社編 ポケット名曲集

○北村邦楽譜 第一編 吉原雀

送料 金廿六
金四錢

卷一 金四十九錢
卷二 金四十七錢
卷三 金四十七錢
卷四 金四十七錢
送料 金四錢

卷一 金七十五錢
卷二 金七十五錢
卷三 金七十五錢
卷四 金七十五錢
送料 金四錢

定料 金四十二錢
送料 金四十二錢

各 定價 金五十錢
送料 金四錢

定料 金四十五錢
送料 金四十五錢

定料 金三十五錢
送料 金三十五錢

定料 金四十錢
送料 金四十錢

北村季晴作 歌劇 ドンアラコ 定價 甲種(伴奏附)金一圓八十錢 乙種(唱歌用)金八圓 送料 金六錢	同 歌劇 ビヨコ太郎 定價 甲種(伴奏附)金一圓五十錢 乙種(唱歌用)金四十五錢 送料 金六錢	同 對話唱歌 方クレン坊 定價 甲種(伴奏附)金八十錢 乙種(唱歌用)金二十五錢 送料 金二錢	同 對話唱歌 八形病院 各定價	同 對話唱歌 ハイ々々息子	東京 共益商社樂器店	同 山野樂器店	同 十字屋樂器店	大阪 三宅書店	同 三木樂器店	神戸 キ下樂器店	京都 十字屋樂器店
---	---	---	---------------------------	-------------------------	---------------	------------	-------------	------------	------------	-------------	--------------



文庫

24

325

広島大学図書

0130458325

